

平成29年12月7日
東部農林振興センター 松江農業普及部

標 題 フレッシュあぐりセミナー（農業士・若手農業者等合同視察研修会）を開催

（ダイジェスト）

11月21日、松江市農業士会と若手農業者等の合同視察研修会を開催しました。出雲市内の「JA産直販売所」、「定年帰農者のいちご高設栽培」、「県農業技術Cの野菜研究実証」、「新規就農者営農状況（施設きゅうり＋露地だいこん）」を視察し、各々の苦勞、喜び、経営の考え方や工夫等について学びながら交流しました。

今年度で5回目となる本セミナーは管内の農業士と若手農業者の資質向上と交流を深めることを目的として、松江地域農業再生協議会担い手部会が企画運営しています。

今回は、農業士2名、集落法人代表者1名、認定新規就農者1名、雇用就農者6名、認定農業者家族2名、関係機関6名と総勢19名が参加しました。

松江市在住の参加者が日帰りで視察できる地域に限定されるため、3年振りに出雲方面で計画し、JA産直直売施設、いちご高設栽培農家（松江市でH30年4月就農予定者研修中）、農業技術Cの野菜・有機農業試験研究圃場、新規就農農家（施設きゅうり、露地だいこん）を視察しました。

視察の最後に訪問した出雲市のK氏は、県立農林大学校を卒業後、2015年4月に就農し、当初は、無農薬や有機栽培にこだわった農業を目指していましたが、「研修先の農家が所属するきゅうり及びだいこん部会員の一人として先輩農家の営農技術を取り入れながら研鑽を続ける中で、単収を上げ、出荷量を増やしていくことが経営安定への近道という結論に達した。」という力強い発言がありました。

本日のセミナー参加者の中には、県立農林大学校OB3名、うち1人はK氏が自力でハウスを設置する際、在校中に手伝いに参加していた者もあり、先輩のたくましい成長ぶりに刺激を受けた様子でした。

普及部としても今後とも関係機関と協力して、県立農林大学校OBの新規就農者を地元の大先輩である農業士と一緒に訪問する機会を継続して企画していくこととしています。



いちご高設栽培訪問



新規就農者訪問